

令和4年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立両川小学校

1 指導の重点

- 図書館の活動を通して、読書の楽しさを体験させ、読書意欲を高める。
- 図書館の資料を活用し、主体的に学習に取り組む能力や態度を育てる。

2 今年度の実践の基本方針

- ・「学習センター」「情報センター」の機能を高めるために、図書館を活用した学習活動を推進する。
- ・「読書センター」としての実践を振り返り、さらに充実させるために、活動を工夫する。

3 今年度の実践

(1)「読書センター」として

①本の展示・紹介の工夫 季節感いっぱい・行事や学習に役立つ・本の楽しさの共有

毎月「おすすめの本」として季節や行事に合わせた本や司書・図書委員・ボランティアが読み聞かせした本を図書館内の棚の上に展示している。本棚から取り出して展示することで、児童が興味をもち、手に取る機会が増えた。読み物だけでなく、国語・社会・総合・生活などの授業や校外学習に合わせた関連図書も展示し、「情報センター」としても役立っている。

※ 図書館だより



図書委員会おすすめの本コーナー (通年)

子ども目線の選書 + 設置場所のよさ(貸出しカウンター奥)もあり、ここから本を借りる児童が多い。

②予約システムの導入

児童が読みたいと思った本が貸出中の場合、その状況が何度も続くと読むことを諦めてしまう。児童の「読みたい」という気持ちを大切にしたいと思い、予約システムを導入した。予約をすれば必ず読めるという見通しが読みたい意欲につながり、シリーズ本も途切れることなく続きが読めるため大好評である。

③図書館だよりの工夫 ⇄ 「学習センター」「情報センター」

図書委員の活動や新刊紹介・読書感想文コンクールの課題図書の紹介・図書館活用授業の紹介などで、児童の読書意欲・学習意欲の向上に効果があった。

④全校児童にわかりやすい本の配置や分類の表示 ⇄ 「学習センター」「情報センター」



分類表示カードを6年生が作成

下学年にはわかりにくい分類表示をやさしい言葉や絵を用いて、見て楽しいわかりやすい分類表示カードが完成した。読書週間に行ったビンゴで下学年が各分類の本を探す際に大活躍だった。

⑤読み聞かせ

司書による読み聞かせ ⇄ 「学習センター」「情報センター」

楽しい絵本や物語だけでなく、運動会や校外学習の時期に合わせた選書で、子どもたちの読書意欲・学習意欲を高めている。季節や年中行事に関わる本もタイミング良く展示され、日常生活に役立つ情報発信の場でもある。

☆新潟県及び全国読書感想文コンクール」の課題図書の内容の紹介☆

(各学級の図書館割り当て時間に実施)

絵本であれば読み聞かせを行い、その他の本についてはあらすじや本文の興味を持ちそうな部分の内容を読んだ。その結果、課題図書を借りる児童が増えた。紹介したことで「読んでみたい。」と思ったようである。また、読書感想文コンクールへ応募者数や入賞者数も増加した。

図書館委員会の児童による読み聞かせ

図書委員が読み聞かせをした本は児童に大人気で、その後に展示するとすぐに児童が借りていく。また、下学年は読み聞かせをする上学年の姿を見て「自分もあんなふうになりたい」と良い刺激を受けているようだ。

読み聞かせボランティアによる読み聞かせ

朝読書の時間に月2回のペースで1～4年生には年3回、5～6年生には年2回「おはなしのじかん」を実施している。年度の初めにボランティア・地域教育コーディネーター・司書で打ち合わせを行い、学年や季節、時事的な問題を考慮しながらもボランティアが児童に読んであげたい気持ちを大切に選書している。児童が先生以外の大人に接する良い機会にもなっている。

⑥読書週間（図書委員による読み聞かせ・ビンゴ・推し本総選挙・コラボ給食）

分類については、年度初めのオリエンテーションで説明しているものの、貸し借りの状況を見ると、理解していない児童が多いこと・特定の分類の本しか読まない児童が多いことが気になっていた。そんな状況を変えるきっかけになればと思い「ビンゴ」を行った結果、各分類から本を借りることで配架場所やどんな内容の本なのかということを確認できたようだ。 ※ 図書館だより

⑦卒業前の6年生への特別貸出し ※ 図書館だより

⑧用務員による環境整備（図書館入口、ブックエンド、新聞台）

図書館入口のドア上部や棚の上にある愛らしい飾り、本を持ち上げる必要がないブックエンド、新聞の読みやすい角度を考えた新聞台。これらはすべて用務員が「木」で製作しており、見た目にも使うにも優しいものとして図書館をぬくもりある空間にしてくれている。



(2)「学習センター」として

①図書館を活用した学習活動（授業の準備・展開での担任と司書の連携）

6年生 国語「タブレット端末と図書館を活用した国語科指導」(ブックトーク)

1 児童に育成したい力

「本のテーマに着目して読み、自分の考えをまとめたり広げたりする力」

2 授業の実際

① 司書の困り感を共有し、単元の見通しをもつ。

事前に各学年の貸出状況や願いなどを司書にインタビューしておき、その結果をロイロノートのテキストにまとめて児童に提示した。

「来館が少ない3～5年生に、図書館に来て本を借りてもらうために何ができるか」という課題意識をもたせ、ブックトークを行い、本に興味をもってもらうことを単元のゴールとして設定した

○年生の貸出冊数が少ない…。

→ 3, 4, 5年生

武藤先生の願い

- できるだけ多くの本を紹介したい。
- もっといろいろな本を手にとって読んでみてほしい。

② 対象学年を決め、テーマを考えて本を選ぶ。

単元での「テーマ」を「書き手が本を通して最も伝えたいこと」と定義し、実際に何冊かの本とそのテーマを例示してイメージをもたせた。その後、自分のお気に入りの本を1冊選び、その本がもつテーマについて考えさせた。担任や司書、友達と話し合いながら、読み取ったテーマと同じテーマをもつ本を探し、1人3冊程度を選定した。選んだ本は、題名や表紙の写真などと共にYチャートにまとめ、提出させた。



③ テーマに着目して本を読み、魅力や心に残ったことをまとめる。

右のようなテキストを配付し、どのような視点で本を読み、考えをまとめていくか見通しをもたせた。また、教師が作成した例を示すと共に、完成した児童の文章を提出箱で共有することで、考えのまとめ方に悩む児童への一助とした。

終わり

この本を読むと、「自分の夢や目標もあの主人公や登場人物みたいに、諦めなくて頑張ろう」と思えるような雰囲気や自己がもてます。今やろうと目標している夢や目標がある人や、もちろんまた今は目指している目標がない人でも、この本は全部お当の内容が面白いものばかりで、それに元気が湧き、自分ももたらえるのでみんなぜひ読んでみてください。

中

「ナースになりたいクレメンタイン」	「ぼくらしく、おどる」	「夢を叶える未来ノート」
この本の魅力は、二冊目は、「ナースになりたいクレメンタイン」です。この本の魅力は、三冊目は、「夢を叶える未来ノート」です。この本の魅力は、	この本の魅力は、「ぼくらしく、おどる」です。この本の魅力は、	この本の魅力は、「夢を叶える未来ノート」です。この本の魅力は、

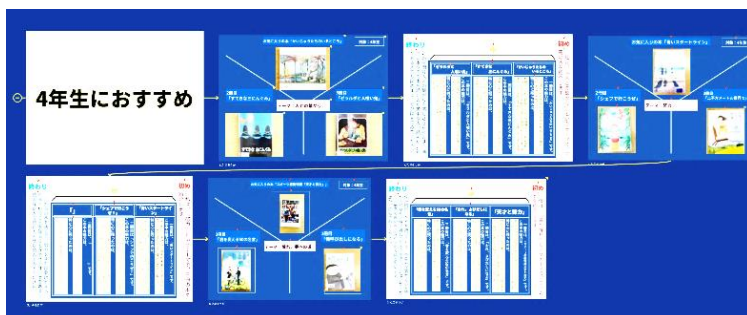
初め

私は、「夢を追いかける」というテーマで、三冊の本を紹介します。

④ 完成した文章をもとに、ブックトークをする。

最初は同じ対象学年のグループ内で、次にクラス全体（6年生）の前で、そして最後に対象学年の教室に向いてと、段階を踏んでブックトークを行った。実際に行う中で、実物（本）の提示のタイミングや、聞き手を意識した話し方などについて考えさせた。

また、活動②③で作成した資料は下のようによまとめ、対象となる学年に配付した。紹介した本とその内容を、ブックトーク後にも自由に見ることができるようにするためである。



※ 図書館だよ!

⑤ 単元を振り返る。

ロイロノートで振り返りを書かせ、共有した。学び方や学んだ内容を価値付け、今後への意欲につなげることができるようにした。

1年生「調べ学習 はじめの一步」

- 1 児童に育成したい力 主体的に図書館を活用して学ぶ力
- 2 授業の実際（児童の発言）

○ボランティア読み聞かせ「はらぺこあおむし」

C「(こんなにいっぱい食べて) あおむしのお腹の中って、どうなってるんだろうね？」

ボ「きっと図書館の本にのっているよ。調べてみたら」

○国語「くちばし」

T「他の鳥を調べるには、どうする？」

C「Aさんが、鳥の図鑑を図書館から借りてきてます」

T「すごいね！鳥の本って図書館のどこにあるの？」

C「4のところにあるよ。」

○道徳「2わのことり」

T「みそさざい、やまがらって、どんな鳥？」

C「図鑑の索引で探してみるね」「この本に出てるよ」

○国語「海のかくれんぼ」

C「教科書に出ていた本を図書館で借りておいたよ」

T「すごいね！みんなに紹介してください。」

T「みんなも、海の生き物の本があったら、借りてきてね。」

○国語「自動車くらべ」(司書と担任のT・T)

司書・・・「調べ学習の手順」を説明
・本選びのアドバイス

・関連図書(オレンジボックス)を展示



図書館掲示「調べ学習の手順」を1年生に合わせて指導

4月から継続している取り組み

- ① 児童が自分で図書館で必要な本を探すこと・進んで調べ学習をすることを賞賛・価値付ける。
- ② 事前に司書に学習内容・必要な本を伝えて、児童が本を探しに行ったときに見つけられるようにする。
- ③ 教室に児童が借りた本を展示する調べ学習コーナーを常設。



成果

- ・自主的に関連図書を探す意欲。
- ・図鑑で調べ学習を楽しむ姿。
- ・図鑑を活用する技能。
- ・本で調べたことをノートに書くことが自主学习として定着。

本の魅力を実感

司書が本を並べた瞬間に児童の目が輝き、「早く調べたい」と、すぐにノートに書き始めていた。ワークシートを配る間もなかった。

②学年別「国語の教科書に紹介されている本」カードの配付

…別紙(例 6年) 実物はA4両面

③学校図書館の利用の仕方・分類・本の扱い方の指導

4月に、図書館オリエンテーションを学年別に実施。その後、年間を通して、学年に合わせて指導。

(3)「情報センター」として

①オレンジボックスの活用

1年生「じどう車ずかんをつくろう」

3年生「すがたをかえる大豆」

特別支援学級「手の動き(手のゲームをしよう)」

6年生「作品の世界をとらえよう(やまなし)」



司書と担任の打ち合わせ
+司書の授業参観

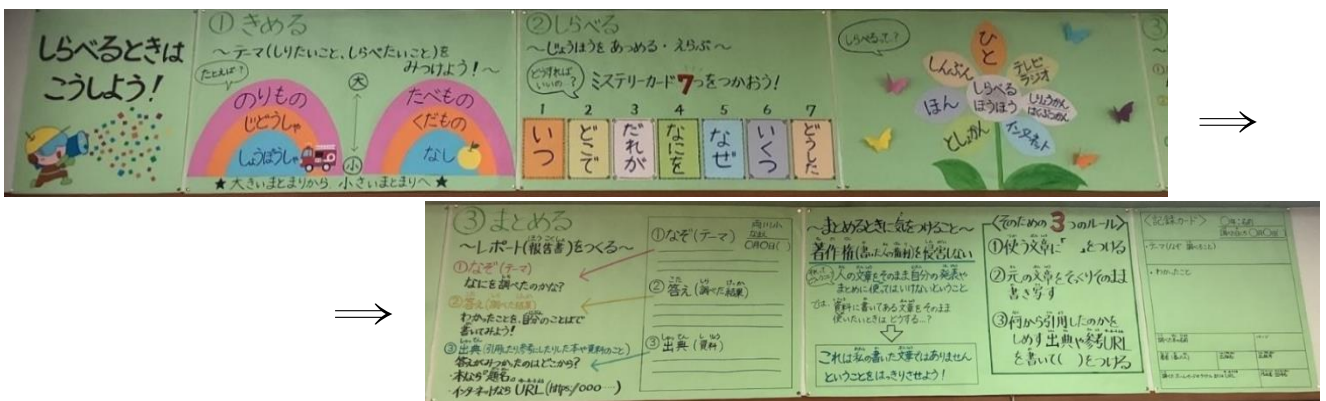
6年生の授業では伊比教諭が、教科書掲載作品「やまなし」の主題を捉えることをゴールに様々な宮沢賢治作品を読み、宮沢賢治の人生を学び、作品の内容と作者の生き方・考え方の両面から作品に込められた思いを捉える学習をするため、「宮沢賢治の作品を集めてほしい。できれば、読みやすい絵本があると良い。」との話があり、オレンジボックスの『宮沢賢治作品』の他、『宮沢賢治作品：絵本』もお願いした。単元「やまなし」を学習している期間はブックトラックに配架して6年生教室に置き、いつでも手に取れるようにした。読書が苦手な児童でも読みやすい絵本を通してたくさんの宮沢賢治の作品に触れることができ、見事に主題へたどり着くことができていた。

- ② 新聞の活用（児童が読みやすい場所に新聞コーナーを複数設置）
- ③ 司書から担任へ図書資料の紹介・図書館の本選定アンケートの実施

（4）両川中学校との連携

- ① 調べ学習の手順を掲示（参考文献 赤木かん子「調べ学習の基礎の基礎」）

調べ学習の手順について中学校と意見交換を行い、小中9年間を通して身に付けてほしい過程を共有した。小学校では下学年にもわかりやすく興味を持ってもらえるように図や絵などを用いて作成した。虹や花、蝶々などのカラフルな色使いで児童の目を引く掲示になっている。



- ② 中学2年生が家庭科で行った絵本についての授業を5年生にも実践

上学年になるにつれ「絵本を借りることが恥ずかしい」といった感情を抱く児童が多く、残念に感じていた。下学年時には内容が難しい絵本や奥が深い絵本を読んでほしいと思う気持ちはあるが、手立てが思いつかなかった。今回、絵本の授業を受けた5年生の振り返りで「絵本の良さ」や「もっと色々な絵本を読みたくなった」などの気づきがあり、結果として絵本の貸出冊数が増加した。

- ③ 読書週間中、小学校玄関に、中学1年生が作成したおすすめの本のPOPを展示
※図書館だより

- ④ 図書館だよりの交換・掲示

3 今年度の実践を振り返って

- ・ 図書館活用推進校としての取り組みによって、図書館がより活性化し、魅力ある場になった。
- ・ 今年度、学校図書館年間指導計画に国語の教材の作者名・引用や図書館指導の単元の内容を加えた。来年度、新たな学校図書館指導計画を見ながら、各学年がどの時期に何を必要としているのかを先読みし、オレンジボックスの活用や調べ学習の提案などを行っていけるようにしたい。